

自分らしさとの出会い

2M 正 瑞 来 夢

「お、お、お……、おがえりなさいませ、ごすずん様」
驚いた。何気なく手に取った本のページをめくり、最初に目に飛び込んできたこの台詞に抱いた正直な感想である。メイドの挨拶に合わない濃厚な津軽弁。この子は一体何者なんだ？この台詞ひとつで、不思議と私は彼女に惹かれてしまったのである。

そんな彼女の名前は、相馬いと。青森県の高校1年生である。人見知りで、ドジで、引っ込み思案で、社交下手。それらの克服と、メイド服への密かな憧れから、地元から列車で1時間もかかる「津軽メイド珈琲店」でアルバイトを始めたのである。

私も、人見知りで、本当の自分をなかなか表現できない。そんな性格をズルズルと引きずって17年間生きてきた。性格が似ている。きっと、それも彼女に惹かれた要因だと考えられる。読めば読むほど彼女から目が離せなくなり、ページをめくる手が止まらなかった。

津軽三味線が特技のいとは、大きく脚を開く自分の演奏スタイルが大嫌いだ。しかし、そのスタイルが亡き母と同じだと知り、受け入れるシーンがある。コンプレックスだった津軽訛りも、自分の言葉として受け入れていく。いとが、お店の人

やお客さんとの関わりを通して自分らしさに気づき、一步一步確実に成長していく様子は、読んでいて清々しささえ覚えた。爽やかな風が、モヤモヤとした霧を吹き飛ばし、視界がすっきりと開けたような気がした。私は、これからの人生をまっすぐ歩いていく力を彼女からもらった。

生きていくのに大切なことは、社会の枠組みに自分を無理矢理はめ込むことなのか。いや、どんな自分でも受け入れてくれる、そんな素敵な仲間や場所と出会うことである。

「おがえりなさいませ、ご主人様」が言えなかったって、よく転んだって、オムライスの絵入れが上手くできなかったって、大きく脚を開く母譲りの三味線の演奏スタイルだって、それら全てがいとの魅力なのだ。冒頭に書いたように、私もありのままの彼女に魅せられた一人である。

私もいつか出会えるだろうか。津軽メイド珈琲店のような、ありのままの自分でいられる場所に。

- 書名：いとみち
- 著者名：越谷オサム
- 出版社：新潮社

理不尽

2E 橋 本 日 菜 子

理不尽というものを私は知っていた。16年間この世で生きてきて、多くの理不尽を目の当たりにしてきた。特に、集団生活をする寮に入ってから理不尽の連続だった。しかし、入寮して早一年が過ぎ、寮という小さな世界で頻繁に起こる理不尽にももう慣れてきた。いや、理不尽に直面する度、悩み、行き場のないもやもやした感情を、整理したつもりで心の奥底に押し込んできたのだ。

この本は6つの短編から成っている。どの話の世界観も独特で、非現実的なものがほとんどだ。しかし、そこで描かれているストーリーは全て現実的で、主人公もそこの小説で出てくるような正義感のあふれる人々ではなく、藻掻き足掻き汚く生きる、本物の人間のような人々だった。二股をかける男、部下に裏切られる上司、夢に浸る男、自分の欲に負ける少女、手の平の上で転がされる男、親友の変貌に悩み狂う少年。

物語はまだ終わっていないのに、心の奥底に押し込んであったはずのもやもやした感情が溢れ出た。体中から暗雲が出て、黒に似た緑と瞬きすら封じる重圧が私に覆いかぶさってきた。しかし、そんな状態でも、嫌悪を抱くことはなかった。それはおそらく、主人公の行動を憐れむと同時に、仕方ないことだと共感し、その行動に納得する自分がいたからだ。

「傘をもたない蟻たちは」と題されたこの本だが、どの話にも蟻は一匹すら出てこない。ではこの題の真意は何か。それは「理不尽を防ぐすべをもたない人間たちは」だ。それを傘と蟻で比喻しているのだ。6つの短編は一見すると全く違うジャンルの話だととらえられるが、全ての話を通して「世の中の理不尽に負ける人々」が描かれている。理不尽という雨を防ぐ傘をもたず、びしょびしょに濡れる人々。その人々の行動を憐れみながらも納得してしまった私も、その内の一人なのだ。理不尽に負ける人々の一人なのだ。

だが、私は理不尽に勝とうとは考えられない。勝てる自信がない。なぜなら、理不尽はあちこちから雨のように降り注ぐからだ。一滴の雨粒にも当たらないなんて不可能なのだ。しかし、私は理不尽に負けたくない。どれだけびしょ濡れになろうとも、大切なものだけは守りたい。だから、多くの理不尽を受け流せる傘を、丈夫な傘をもてるように、毎日を大切に学んでいこう。

- 書名：傘をもたない蟻たちは
- 著者名：加藤シゲアキ
- 出版社：角川書店

生死の間に見えるもの

2Z 西 條 賢 人

みなさんも死について考えたことは、少なからずあるだろう。それは、誰にも想像のつかない世界である。時間が経つにつれ、死者は次々と増えていく。ときには、昨日まで元気に話していた人が死んでしまうこともある。なんて残酷で突然なのだろう。

地元の病院に内科医として勤務し、高齢者を看取り毎日を過ごす、一止がいた。人の死をたくさん目の当たりにしているはずなのに一止は泣いたことがなかった。あの人に出会うまでは、一止はこれまで何人も患者と向き合ってきた。その中で、最も印象的だった安曇さんというおばあさんの物語を紹介したい。

安曇さんは当時90歳で、死を身近に感じていた。ほとんどの人はこの時点で死への恐怖が芽生え、焦りでおどおどするそうだが、安曇さんはとても穏やかだった。安曇さんは人への心配りができる親切な人だったので、医者にあまり迷惑を掛けなかったのだろう。

安曇さんが天国へ旅立った後、枕元から1枚の手紙が落ちてきた。「病の人にとって、もっとも辛いことは孤独であることです。たとえ病気は治らなくても、生きていることが楽しいと思えることがたくさんあるのだと、教えてくださいました。」

一止は、危険な状態だった安曇さんのやりたい事をできるだけ可能にしてきた。ベッドの上で安静にしていれば、1週間くらいは寿命を延ばすことができていた。死の淵に立つ人にとって大切なことは、少しでも長生きすることなのか。いや、楽しい人生だったと思えるような終わりを迎えることである。安曇さんの手紙から見てとれるように、一止が行なった医療方法は間違ってたなかったのだ。

この世に人の死に慣れていない人はいない。一止もその中の一人だ。しかし、1つ1つの死をうじうじと引きずっているようでは、前に進むことはできない。だからといって人の死を簡単に考えるのはもってのほかだ。

死とはやはり、わからないものである。やりたいことをやり遂げた人の上には、虹が見える。

おや？ひんやりとした他の病室で黒い雨が降り出すのが見えた。

- 書名：神様のカルテ
- 著者名：夏川草介
- 出版社：小学館



図書館からの推薦図書

平成28年度の新着図書から紹介します。

『世界屠畜紀行』

内澤句子 著

毎日食べている肉はどこから、どのようにやって来るのだろうか？

牛や豚がどのような過程を経て私たちの食卓に並ぶのかを、私たちはよく知らない。

それらを仕事にしている人達がいるからこそ、肉を食べることができる。その仕事はただ残酷なだけではない。

分かりやすい文章とイラストで解説された、私たちの知らない屠畜の世界。

*閲覧室：648.22||U25

『世界のエリートがやっている最高の休息法』

久賀谷亮 著

「身体を十分休めたのに疲れがとれない」こんな風に思ったことはありませんか？これは、身体ではなく脳が疲労している場合があります。脳は、体重の2%ほどの大きさしかないのですが、実は身体の新消費エネルギーの20%を使っているのです。

この本は、気難しいビジネス書ではなく、ストーリーを楽しめる読みやすい本なので、何かと忙しい方には必須の本です。

*閲覧室：498.39||Ku21

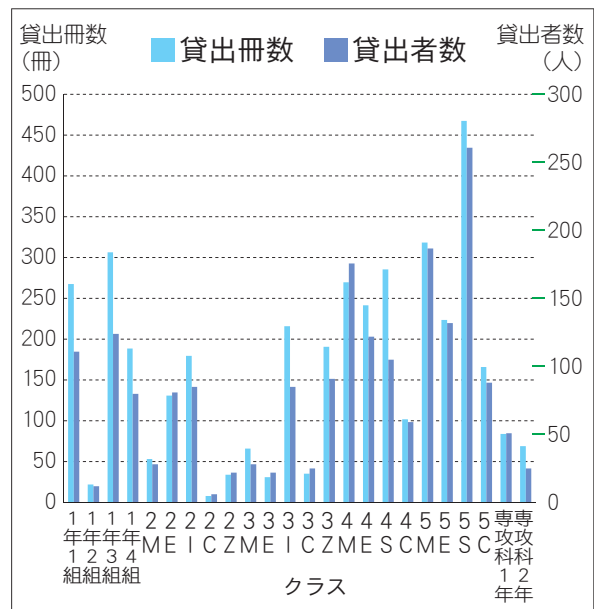


図書館利用統計 [平成28年度4月～12月期]

◎図書貸出ランキング（上位10冊）

順位	回数	書名
1	43	TOEICテスト新公式問題集 Vol. 6
2	35	TOEICテスト公式問題で学ぶボキャブラリー
3	27	工業英検3級クリア
4	24	工業英検3級問題集
5	23	工業英検4級問題集
6	22	工業英検4級クリア
7	16	TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編
8	14	TOEICテスト新公式問題集 Vol. 5
8	14	工業英検 3級対策
8	14	編入数学入門：講義と演習

◎クラス別図書貸出状況



図書館からのお知らせ



平成29年度の前学期4月からは、一般教養棟1階の教室に「仮設図書館」を設けてサービスを行います。

開館時間 平日は、9時～18時(職員が不在の場合は、出入口を施錠します。) 土曜日、日曜日・祝日は、休館

利用資格 本校の学生・教職員 ※一般の方はご利用いただけません。

配置する資料 図書、雑誌、新聞

サービスの内容

- ・図書の閲覧 図書等は、室内で自由に閲覧できます。
- ・図書の貸出 貸出は、1人につき、5冊まで15日間
- ・資料に関するレファレンス、ノートPC貸出、複写依頼受付、他大学図書館等からの図書・複写物の取り寄せ



●新図書館のオープンは、10月を予定(詳細は、ホームページや掲示等でお知らせいたします。)

URL <http://www.anan-nct.ac.jp/library/>

TEL 0884-23-7106

E-mail tosho@anan-nct.ac.jp

